

事業事前評価表
国際協力機構東南アジア・大洋州部東南アジア第三課

1. 基本情報

- (1) 国名：ベトナム社会主義共和国（ベトナム）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ハノイ市（人口：824.6万人）
- (3) 案件名：国立がん病院における医療機材整備計画
(The Project for the Improvement of Medical Equipment at National Cancer Hospital)

G/A 締結日：2024年5月28日

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における保健セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け
ベトナムでは、経済成長に伴うライフスタイルの変化に伴い、死因上位を占める疾病が感染症から非感染症へと変化してきており、2020年の全死因のうち非感染性疾患による死亡割合は約80%（保健省統計）を占め年々増加している。過去30年間にベトナムのがん罹患率は3倍増加し、特に死因5位の肺がんは過去10年間で死亡増加率50%と顕著な増加傾向を示している（保健指標評価研究所：2009年-2019年）。部位別がん罹患割合は、肝臓がん（15.4%）、肺がん（14.4%）、胃がん（10.6%）が上位を占め（世界保健機関）、2020年の新規がん罹患件数は18万件を超え増加傾向にある。

かかる状況下、ベトナムは「国民の健康保護・治療強化のための国家戦略（2011-2020年、2030年の目標）」（首相決定）において、非感染性疾患の予防と管理、高度専門医療の整備を目標に掲げ、「非感染性疾患の予防管理戦略」（首相決定）では、2025年までに「がん、心血管疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患による早期死亡の20%減少」及び「一般ながん疾患の早期診断率の40%増加」（いずれも対2015年比）を目標としている。

国立がん病院は、2,100床を有するベトナム最大のがん専門病院であり、教育・研究機能も備え、国立がん病院のサテライト病院として登録している70の医療機関に対してテレカンファレンスを実施し、対応が難しい症例等の指導を定期的に行っている。また、がん診断・治療のトップリファラル病院として北・中部地域の60の提携病院からの紹介患者及びハノイ市内の患者を中心に、年間約8万人の入院患者と30万人以上の外来患者を受け入れ、約2.5万件の外科手術を実施するなど、がん分野においてベトナム内医療施設の支援数、紹介患者数は国内最大である。がん疾患は、体の様々な部位に発生し、種類も多く、転移や再発もあるため、スクリーニング・早期発見、適切な治療、緩和ケア等、包括的なサービスが不可欠であるが、医療機材不足や施設老朽化に伴い、患者

のニーズに十分に対応できていない。同病院は、政府資金によって老朽化した全 3 施設のうち、ハノイ中心部に立地し、患者にも便がよい第一施設を建て替え中で 2023 年中の稼働を計画しているが、新しい施設に必要な機材を十分に整備することができていない状況にある。

国立がん病院における医療機材整備計画（以下、「本事業」という。）は、同施設に医療機材を整備することにより、ベトナムのがん診断・予防体制を強化し、医療サービスの質向上に資するものであり、ベトナム政府戦略とも合致し、優先度の高い事業として位置付けられる。

（2）保健セクターに対する我が国及び JICA の協力量針等と本事業の位置付け
「対ベトナム社会主義共和国国別開発協力量針」（2017 年 12 月）において「脆弱性への対応」が重点分野として定められ、「対ベトナム社会主義共和国 JICA 国別分析ペーパー」（2020 年 6 月）においても「保健医療・社会保障」が重点分野であると分析しており、本事業はこれら方針、分析に合致する。さらに、「自由で開かれたインド太平洋（FOIP）」のための新たなプランの第 2 の柱「インド太平洋流の課題対処」の「国際保健」にも合致する。

また、JICA 世界保健医療イニシアティブの重点課題である「診断・治療体制の強化」及び JICA グローバル・アジェンダの「保健医療」で重要な取組方針とされる「中核病院診断・治療強化」にも合致する。加えて、本事業は、非感染性疾患の増加という疾病負荷の変容に伴う保健医療ニーズの変化に対応するものであり、我が国の「グローバルヘルス戦略」の基本的考え方（持続可能性）及び SDGs のゴール 3 に合致する。

（3）他の援助機関の対応

世界銀行は、保健人材の教育機関強化、国家レベルでの感染症対策及び貧困層向け保険基金整備の他、北東部紅河デルタ地域を中心とした郡レベルの医療機関の強化を行っている。アジア開発銀行は、医療人材の資格制度整備及び中南部の省レベル医療機関への支援実績がある。また、United States Agency for International Development（USAID）が保健人材の育成を進めるとともに United States Centers for Disease Control and Prevention（USCDC）が呼吸器疾患の監視能力強化を支援している。

3. 事業概要

（1）事業概要

① 事業の目的

本事業は、ハノイ市の国立がん病院において、医療機材を整備することにより、診断体制の強化及びアクセスの改善を図り、もって同病院及び北・中部地域における医療サービスの質向上に寄与するもの。

② 事業内容

1) 機材等の内容

医療機材（PET/CT システム、MRI 撮影装置、CT 撮影装置、血管造影撮影装置、X 線撮影装置、マンモグラフィー、医療用画像管理システム（PACS）、フュージョン画像技術付き超音波診断装置、耳鼻咽喉科用蛍光内視鏡、放射線科情報システム（RIS）等）。

2) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、入札補助、調達管理、保守契約。

③ 本事業の受益者（ターゲットグループ）

直接受益者：当病院検査受診患者（延べ約 48.7 万人）

最終受益者：北部・中部地域の住民（約 61 百万人）。

(2) 総事業費

約 1,849 百万円（概算協力額（日本側）：1,830 百万円、ベトナム側：19 百万円）

(3) 事業実施スケジュール（協力期間）

2024 年 5 月～2029 年 4 月を予定（計 60 か月）。全機材供用開始時（2026 年 4 月）をもって事業完成とする。

(4) 事業実施体制

1) 事業実施機関：保健省（Ministry of Health）

2) 運営・維持管理機関：国立がん病院（National Cancer Hospital）/保健省（Ministry of Health）

(5) 他事業、他援助機関等との連携・役割分担

1) 我が国の援助活動

都市部と地方の医療格差是正を目的とする「遠隔技術を活用した医療人材能力向上体制強化プロジェクト」（2024～2029 年）で、国立がん病院の遠隔医療に係る知見共有を通じた連携を検討する。

2) 他援助機関等の援助活動

国立がん病院は、本邦国立がん研究センターと 2018 年に MOU を締結し、共同研究、交換プログラム、診断・治療支援などを通じて交流しており、診断・治療体制を強化し、医療サービスアクセス向上を目指す本事業との相乗効果が期待できる。

(6) 環境社会配慮

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類：C

② カテゴリ分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2022 年 1 月公布）上、環境への望ましくない影響は最小限で

あると判断されるため。

(7) 横断的事項：特になし

(8) ジェンダー分類：「(GI) ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件」

<活動内容/分類理由>

本事業においてジェンダー平等や女性のエンパワメントに資する具体的な取組や指標等の設定には至らなかったため。なお調査では、社会・ジェンダー分析がなされ、対象病院では女性の視点に立った診察環境を整備し、女性活躍推進委員会により院内における男女共同参画が推進されていることを確認している。

(9) その他特記事項：特になし

4. 事業効果

(1) 定量的効果

1) アウトカム（運用・効果指標）

指標名	基準値 (2018年実績値)	目標値(2029年) (基準値に対して付加される検査能力) 【事業完成3年後】
総検査数(件/年)	343,113	144,650
PET/CT 検査数(件/年)	0	3,400
MRI 検査数(件/年)	2,768	3,000

(注) 検査数(基準値、目標値)は第一施設を対象

(2) 定性的効果：患者及び医療従事者の満足度の向上、医療サービスの質向上。

5. 前提条件・外部条件

前提条件・外部条件：本事業の対象である国立がん病院第一施設の建設が機材調達前に完了すること。

6. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

ベトナム向け無償資金協力「国立産婦人科病院機材整備計画」(評価年度2015年)の事後評価等では、整備した機材のうち先方のニーズに合わない機材(例：救急車の広さ、自動染色装置の検査のスピード、新生児用人工呼吸器の対象体重など)が一部あり、有効活用のため他医療施設へ移設する対応が生じた点が指摘されている。そのため、本事業では、機材仕様の認識相違を防止し、先方ニーズにそぐわない機材の導入を避けるため、調査時点から機材の仕様を十分

確認し、入札時の仕様も実施機関と入念に確認した上で調達を行うこととする。

7. 評価結果

本事業は、ベトナムの開発課題・開発政策及び我が国並びに JICA の協力量針・分析に合致し、ベトナムで増加するがんに対する診断・治療の拠点病院機能の向上を通じ、ベトナムの強靱な保健システム構築に資するものであり、SDGs のゴール 3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」に貢献することから、本事業の実施を支援する必要性は高い。

8. 今後の評価計画

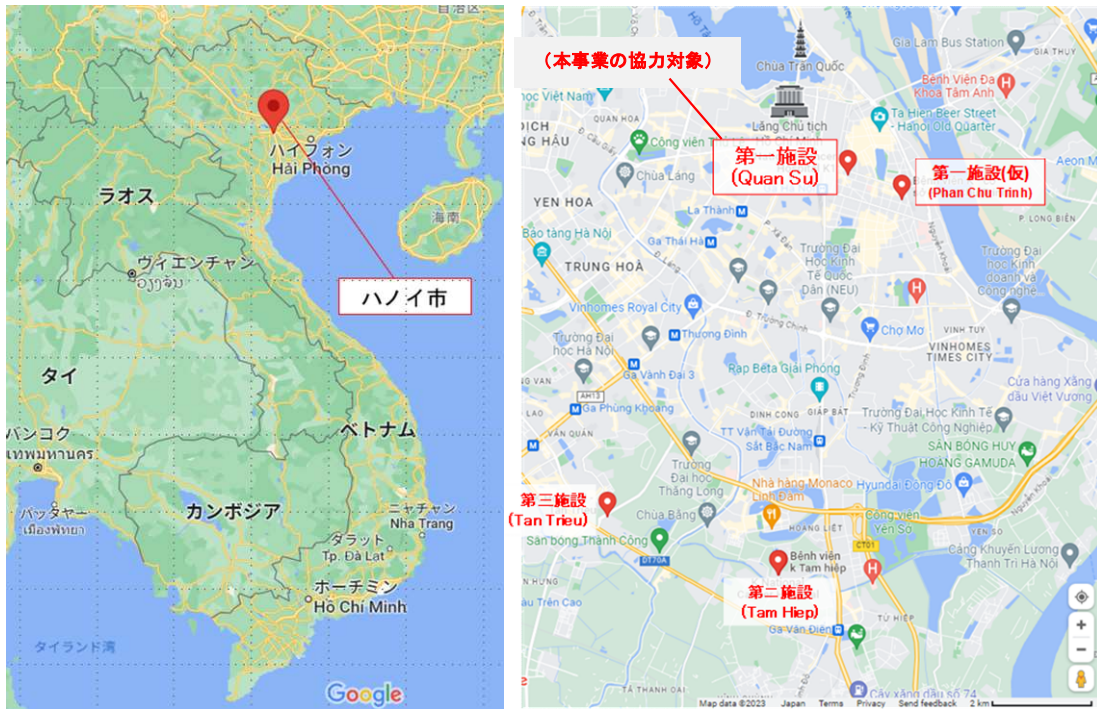
- (1) 今後の評価に用いる指標
4. のとおり。
- (2) 今後の評価スケジュール
事業完成 3 年後 事後評価

以 上

別添資料 国立がん病院における医療機材整備計画地図

国立がん病院における医療機材整備計画 地図

ハノイ市内の国立がん病院位置図



出典) Google Map より作成